

4月21日・30年度総会開催 出席者54名、詳細は次号で報告

30年3月度臨時役員会

3月19日（月）、13:00～15:00、久

1. 新入会者

逗子ホワイトハウス管理組合（山の根1丁目、代表者三浦貴様）、及び中村恭良様（ハイランド在住）から入会申し込みがありました。

役員会からのお知らせ

1. **パブリックサービス（株）から支援金**
同社は剰余金を原資として「市民貢献準備金」を積み立てて、毎年市民活動へ役立てていますが、30年度は4小学校区の住民自治協議会の活動に、各20万円ずつ支援金を提供することが決まりました。尚、児童登下校の交通整理要員がもう一つの支援対象です。

30年4月度役員会

4月4日（土）、13:30～15:00、久木会館で21名（内役員13名）が参加して第12回役員会が開催されました。審議内容は次の通りです。

1. 新入会者

石井照周（てるちか）様（山の根在住）から入会申し込みがありました。

2. 会員（数）と議決権（数）の確認

総会当日会員（直近の役員会当日の会員）をもって議決権者とすることが決まりました。

木会館で16名（内役員9名、他に委任状4名）が参加して第11回役員会（臨時役員会）が開催されました。審議内容は次の通りです。

2. 総会関係討議

総会内容・進め方、提出資料の確認を行いました。

2. **ふれあいスクール土曜閉館に伴う措置**
市の財政悪化に伴う処置の一つとしてふれあいスクールが土曜日閉鎖されることとなりました。

児童が利用できる公共の場所として、体験学習施設、二つのコミュニティセンターと共に久木会館が挙げられています。但しふれあいスクール事業を代わりに行うわけではありません。

3月31日現在の会員数は、団体会員39、個人会員30の合計69です。

従って、議決権（数）は新入会者を加えて、団体会員39、個人会員31の合計70となりました。

3. 総会資料の最終確認

総会資料の最終確認を行いました。

尚、追加資料として役員と会計責任者の一覧表を、当日配布することになりました。

4. 子ども緊急避難所に関する提案

逗子PTA連絡協議会が行っていた子ども緊

急避難所制度（注）が廃止となりました。
本件に関して山崎理事から、ハイランド自治会では代わりとなる事業の実施検討を始めているが、地域共通の問題なので住民協が中心となって行ったらどうかの提案がありました。本提

案に対し、廃止した理由、PTA等当事者の意向等調査の上、検討することとなりました。

（注）【子ども緊急避難所】と明示したステッカーを家庭の表に貼って、緊急の際に児童が駆け込めるようにしておく事業。

役員会からのお知らせ

1. 社会福祉協議会に入会

事務局から、住民協が逗子市社会福祉協議会に入会する提案があり了承されました。入会理由は、今後の事業の拡大に伴い、社会福祉協議会との関係が深まること、全社協が運営する補償制度を活用することが増加すること等です。

2. みんなの食堂から報告

3月26日、3回目のみんなの食堂を開催、今回は春休みを利用してランチタイムの食堂となりました。11時30分ごろから受け付け開始、12時～13:30分が開催時間。献立はちらし寿司とアカモクの吸い物他。
参加者総数113名（子ども58名、保護者3

5名、スタッフ20名）

収入¥34,800、食材支出¥27,450、
残金¥7,350

（尚、逗子ぐい呑み実行委員会から¥10,000の寄付を頂きました。）

その他の支出¥12091（食器等を購入）
今回の特徴は、沢山の子供のお手伝いがあったこと、他地域からの参加者が多かったこと等が挙げられます。次回は4月27日（金）、17時～

3. フレスク児童の土曜受入れ

フレスクが土曜閉鎖となり代わりに久木会館が場所を提供する件の最初の土曜日は、来場児童はなかった旨報告がありました。

部会報告

ふれあい部会 報告者 龍村敦子

部会を平日の昼間開催にした2回目の会合です。前回から2包括、社協地域担当者も参加され、かなりの大所帯（15人）になり、しかも活発な意見交換会で久木会館が振動するほどです。

久小地区での住民主体の有償サービスを作る（コミュニティサービスと今はよんでいる）ことはふれあい部会活動の柱の一つであり、1年間かけて勉強会とおぼしきものを開いてきていたにもかかわらず、このサービスの概要や主旨がいまだに部会員の腑に落ちるところまで

きていないことが判明し、今回は住民主体のサービス「とは」と「なぜ」やるのかの復習の時間となりました。

再確認はしましたが、今後部会員全員が自分の地区、町内会、近隣にこれから作る有償サービスの「なぜ、とは」が語れるようになるようさらに咀嚼していきます。

次回5月の部会ではさらに具体且つ細部の認識のすり合わせに入ります。一段とヒートアップする議題が満載です。

これは「我が事」の活動です。部会員の熱意があれば必ず良いものが生み出せます。今まで通り活発な会にしましょう。

トピックス

プレゼンテーションコンテスト(聖和学院)に参加して 鈴木為之(山の根在住)

3月20日、聖和学院で「逗子市の防災・減災を考える」というテーマで、プレゼンテーションコンテストが行われました。10組の生徒が、大テーマの中から個別のテーマを決めて、3分の時間でプレゼンテーションを行い、発表そのものと示されたレジメの二つに分けて、参加者が投票により順位を決めるという、地域との交流を含めた学校教育の一つの行事です。地域から約20人が参加しました。

発表の内容は、災害と日常との関わりについての類が6件、学校と避難所の関わりについてが2件、その他2件で、その中から二つを紹介しましょう。

一つは、「災害に備えて、私たちが普段からできる取り組みを考えよう」です。

その中で、「普段から持ち運べるグッズ」⇒流せるティッシュ、カイロ、飴チョコ、伸ばせるミサンガ(止血のため)、マスク、折り畳み靴、携帯トイレ、携帯用バッテリー(スマホの充電)、笛や薬や小型ライト、と「就寝時近くに置いておくべきもの」⇒懐中電灯、ヘルメット、ブザ

一、スリッパ、を紹介しています。

前者については、いずれの物も手のひらに載る程度の大きさですぐ役立つもの、女子生徒ならではの気づきを感じられます。

二つは「聖和学院が避難所になったとき、校内をどのように使うか考えよう！」です。

校舎を主に就学前の子と親が避難したことを前提に考えています。聖和学院の特徴の一つは幼稚園を持っているのでその特徴を生かしたい。図書ホールで子どもたちが備えてある子供向けの本を自由に読める。傷病者が休憩・手当ができる場所とする。保健室は傷病者が手当てをする場所として使う。職員室は情報を集める場所として使う。これらの部屋は一つの校舎の中でつながっているので使いやすい。

そこにいる生徒ならではの具体的な、学校の特徴を生かした提案だと思えます。

プレゼンテーションコンテストの後、生徒による「ビブリオバトル」が行われました。ビブリオバトルとは、書評(或いは読後感を発表)を競うコンテストです。

地域とそこにある学校は切っても切れない関係を持つので、お互いに理解を深める良いイベントであったと思えます。

編集後記

住民協では今、ふれあい部会が中心となって、「住民協のコミュニティサービス」の具体化に向けて活発な議論がされています。この活動は、住民協の中で住民同士がお互いに、ちょっとした困りごとを解決する助け合い(生活支援)を有償で行っていこうという活動です。

今行われているご近所の助け合いやお互いさま活動を、人材が集まりやすい広域で、頼みやすい程度の有償で行っていこうという活動で、国が進めている「地域共生社会」の創生と通ずるところがあります。

「千里の道も一歩より」の諺を借りれば、最初の一步は地域住民の皆様に「とは?」「なぜ?」を知っていただくことでしょう。その議論が行われています。

期初の総会が終了しました。総会の間を、結果と計画を問う場にとどめずに、地域住民の皆様との数少ない意見交換の場として、一層活用していきたいと考えています。

事務局長 鈴木 為 之

連載【グループ紹介】 第4回 《山の根自治会・児童見守り隊》

久木小学校に通う児童の登下校見守りをはじめ、今年の4月で14年目を迎えました。始めた時の隊員は21名、現在の隊員は52名（女性21名、男性31名）、登校時と下校時に合わせて、通学路の3か所で見守り活動をしています。

そのモットーは 「子どもの成長を見守りながら、
地域の安全・安心・福祉のまちづくりに貢献、
いつでも、どなたでも参加できます。」

この活動がはじめられたのは、一人の人の「地域で痛ましい事件を絶対に起こしてはいけない」という情熱からです。

『当初は、全国各地で頻発する小一女兒の痛ましい事件を、当地域では絶対に発生させてはいけないとの思いだけで始めました。当時、事件のあった地域の共通点は、見守り活動はしているにもかかわらず、その日その時は見守りはしていなかったことでした。』



そこで、この教訓を生かし自分達が見守り活動をする場合、

- ① 年間を通して毎日見守ろう。しかも、登校時だけでなく下校時も一年生だけでなく6年生迄すべての下校時間帯を見守ろう。
- ② 保護者や教師に頼らず、時間に余裕がある定年退職した男性や、子育てを終えた女性に声をかけよう。

しかし、果たして参加者がいるのか、継続させることができるのかと誰もが確信を持ってない事案でした。』

『当初は予定より少ない参加者でしたが、発足以来一日も休むことなく現在に至っています。どのような気象条件でも見守り続ける隊員を見て、徐々に理解者が増えたようです。今では保護者の参加も増え、若返りと隊員の負担も軽くなっています。』

←——写真の子供たちも社会人や大学生になりました。

ここ数年、女性の参加者が増えるとともに、事実若返ってきました。**継続は力**なのです。



←——
毎年作っているポスターの原画となる児童の描いた絵も、楽しみの一つです。